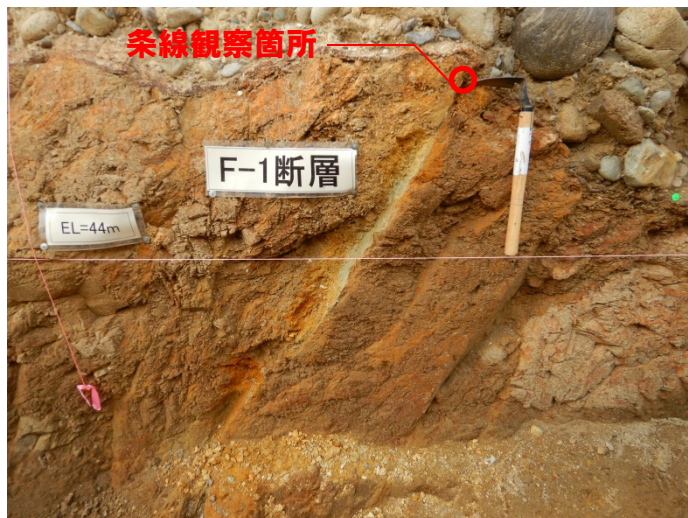


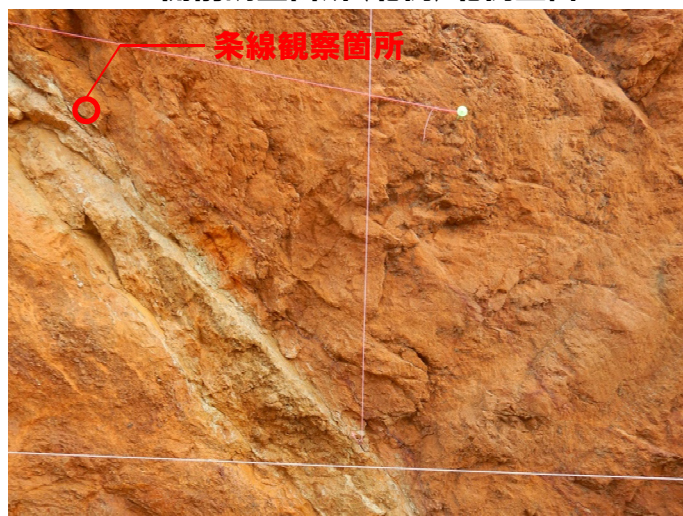
(2)開削調査

①-1 露頭観察及び条線観察結果 (2/2)

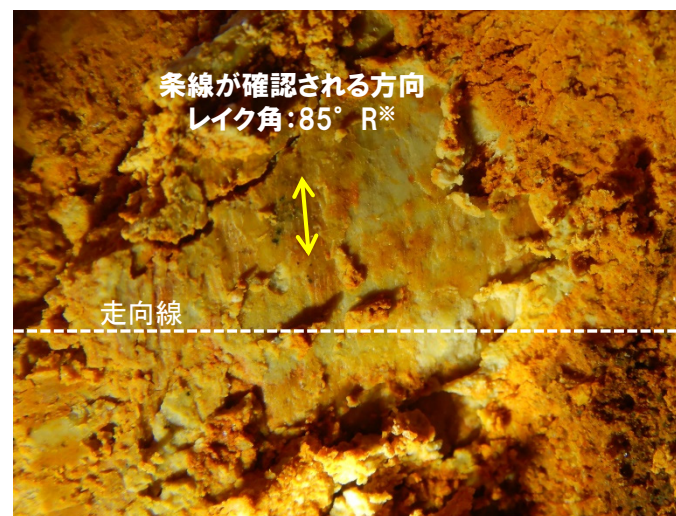
一部修正 (R1/11/7審査会合)



開削調査箇所 (北側) 北側壁面



開削調査箇所 (南側) 南側壁面



条線観察状況写真 (下盤側から上盤側を望む)



条線観察状況写真 (上盤側から下盤側を望む)

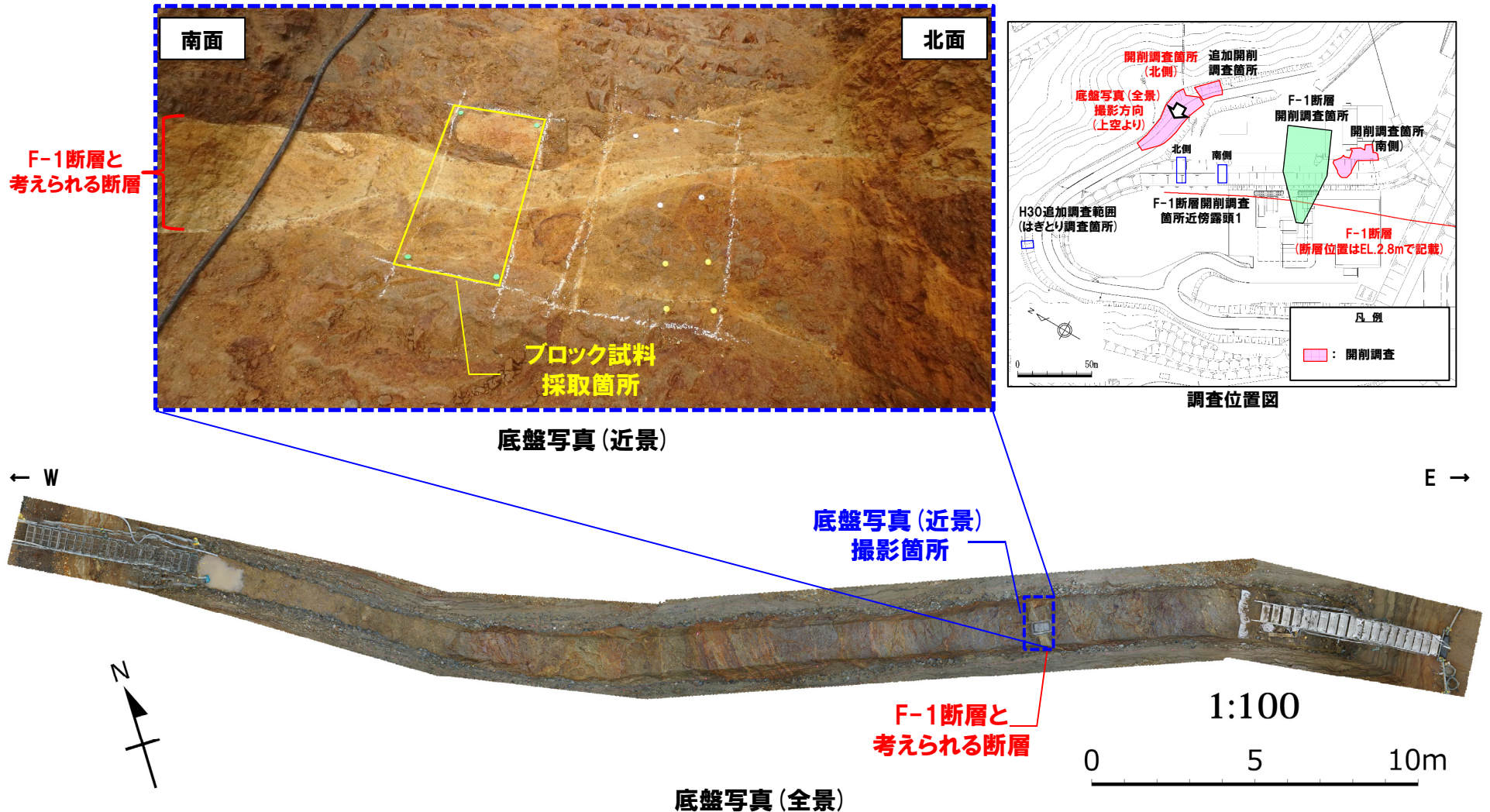
*上盤側から下盤側に読み直すと、レイク角は85° Lとなる。

(2)開削調査

①-2 開削調査箇所(北側)におけるF-1断層の性状の確認

一部修正 (R1/11/7審査会合)

○X線CT画像観察及び薄片観察に用いたブロック試料の採取箇所を以下に示す。



(2)開削調査

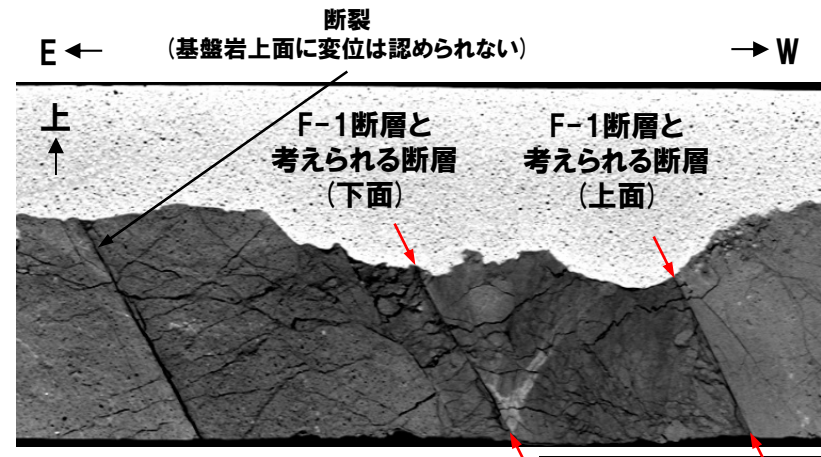
①-3 開削調査箇所(北側)におけるF-1断層の性状の確認-X線CT画像観察結果-

一部修正 (R1/11/7審査会合)

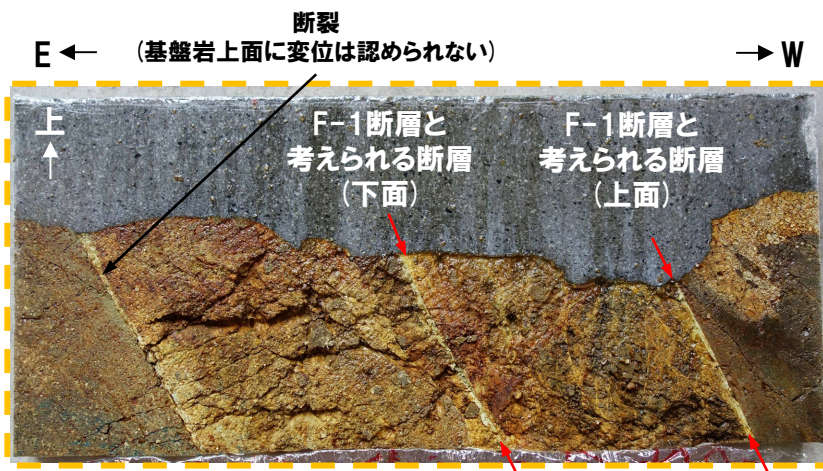
- X線CT画像観察の結果, F-1断層と考えられる断層の上面及び下面において連続する直線的な低密度部が認められる。
- 上述の性状は, R1敷地-2'ボーリングにおけるF-1断層の性状と類似する。
- また, F-1断層周辺では, F-1断層と考えられる断層の下面東側のような断裂が密集して分布するが, 基盤岩上面に変位は認められない。



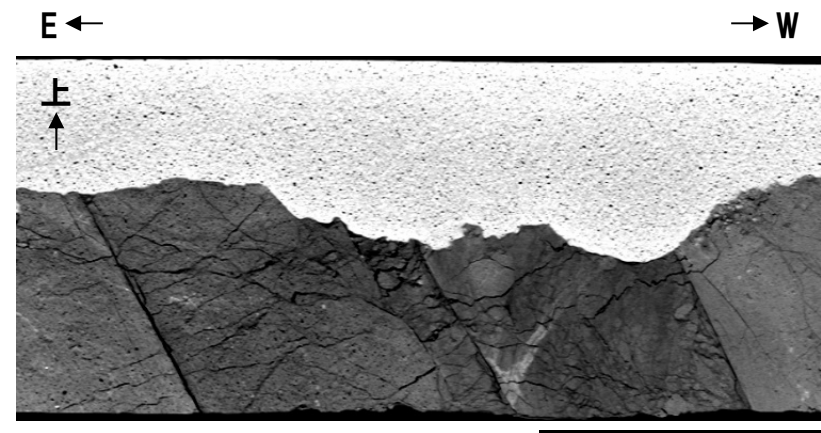
底盤写真(近景)



X線CT画像(解釈線あり)



傾斜方向サンプル写真



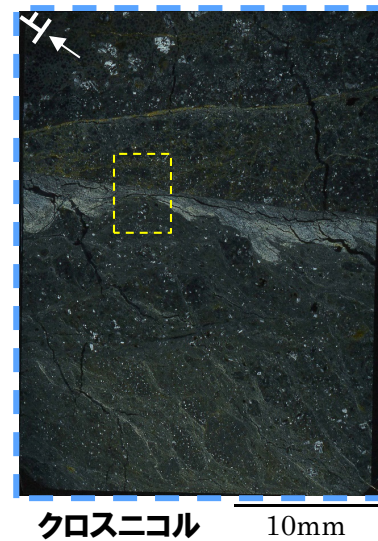
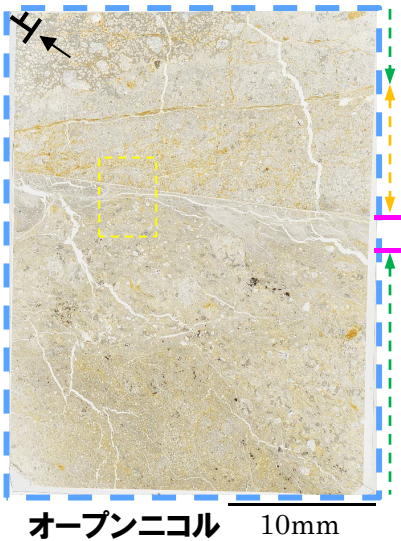
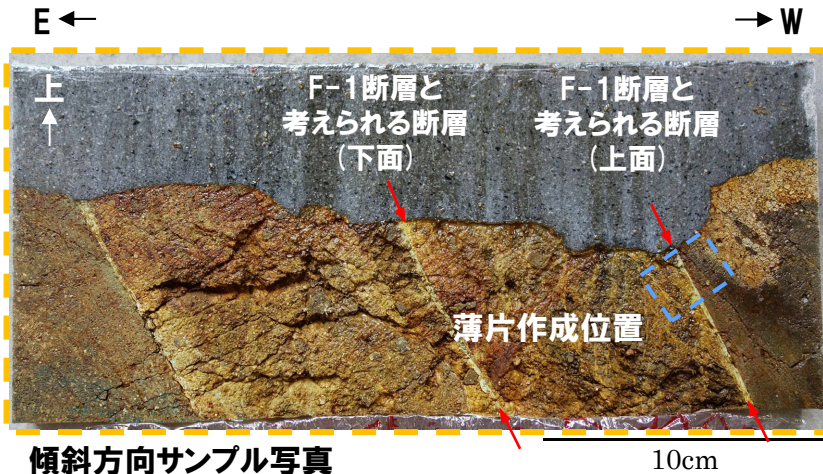
X線CT画像(解釈線なし)

(2)開削調査

①-4 開削調査箇所(北側)におけるF-1断層の性状の確認-薄片観察結果 上面側(1/2)-

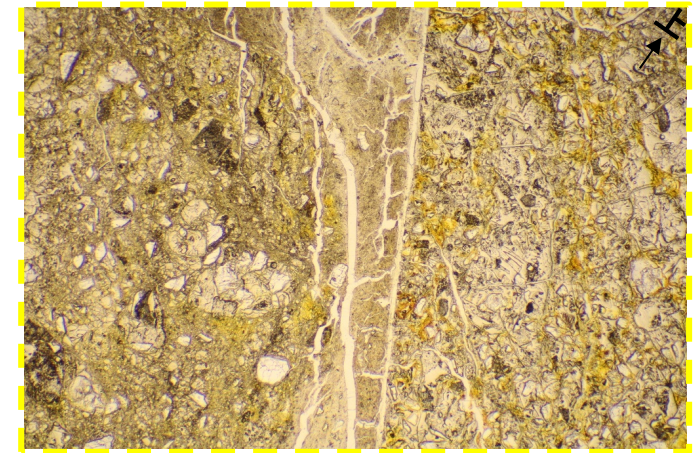
再掲(R1/11/7審査会合)

- 粘土状破砕部は直線的に連続し、特に上盤側の境界面はシャープで直線的である。
- 粘土状破砕部では、逆断層センスを示すP面及びR₁面が認められる。
- 上述の性状は、R1敷地-2'ボーリングにおけるF-1断層の性状と類似する。

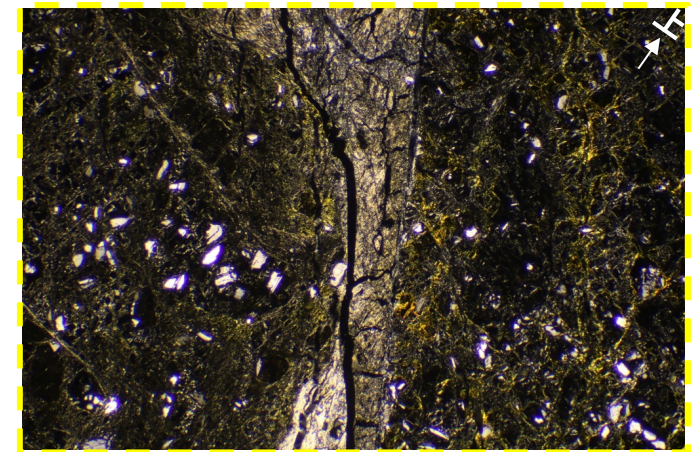


- ↔ : 粘土状破砕部
- ↔ : 固結した粘土状破砕部
- ↔ : 固結した砂状破砕部
- ↔ : 固結した角礫状破砕部

<拡大写真>



<拡大写真>



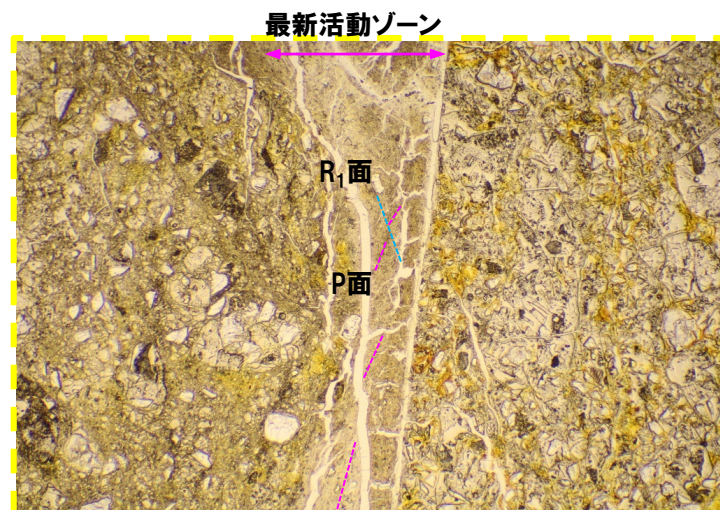
クロスニコル(右に90°回転)

1mm

(2)開削調査

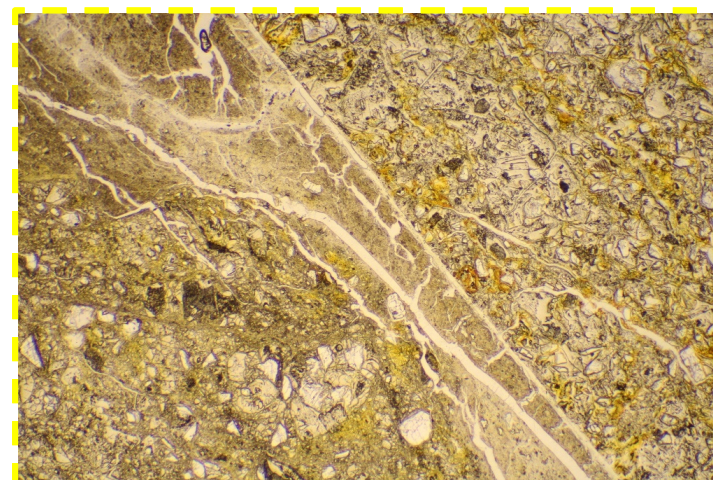
①-4 開削調査箇所(北側)におけるF-1断層の性状の確認-薄片観察結果 上面側(2/2)-

再掲(R1/11/7審査会合)



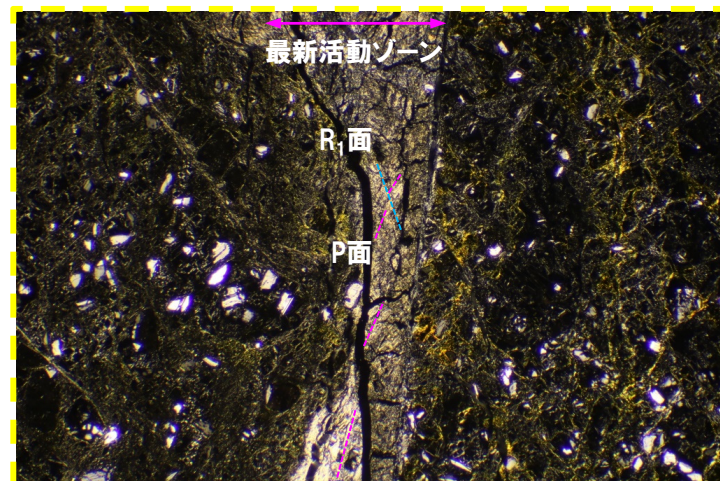
オープンニコル

1mm



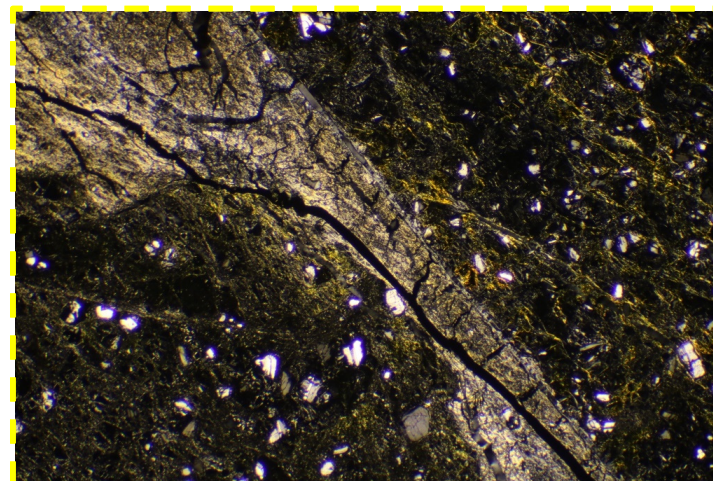
オープンニコル(左に45°回転)

1mm



クロスニコル

1mm



クロスニコル(左に45°回転)

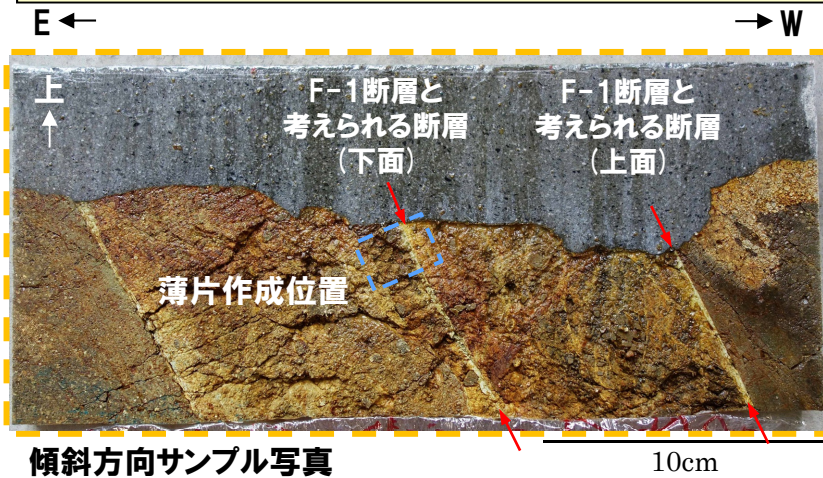
1mm

(2)開削調査

①-5 開削調査箇所(北側)におけるF-1断層の性状の確認-薄片観察結果 下面側(1/2)-

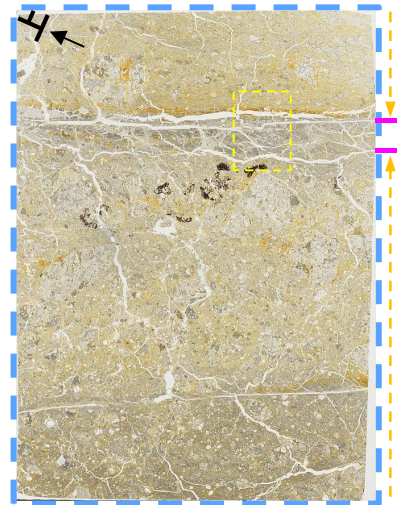
再掲(R1/11/7審査会合)

- 粘土状破砕部は直線的に連続し、特に上盤側の境界面はシャープで直線的である。
- 粘土状破砕部では、逆断層センスを示すP面が認められる。
- 上述の性状は、R1敷地-2'ボーリングにおけるF-1断層の性状と類似する。

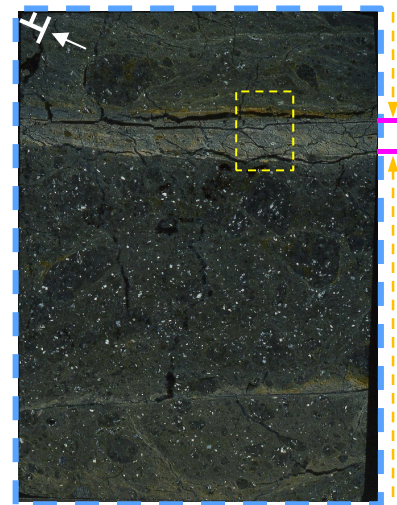


傾斜方向サンプル写真

10cm



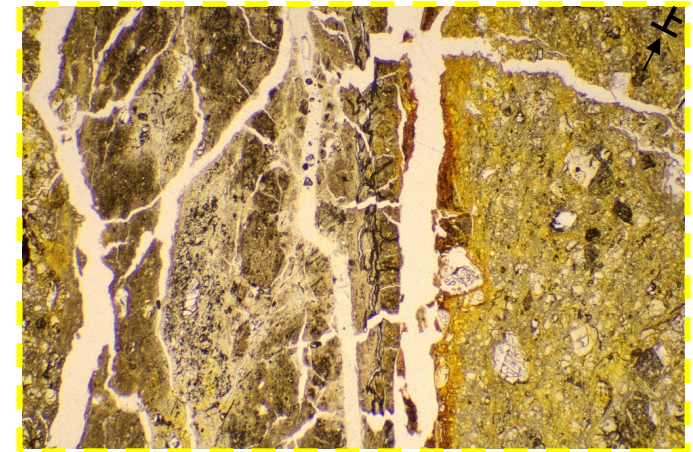
オープンニコル 10mm



クロスニコル 10mm

←→ : 粘土状破砕部
←→ : 固結した砂状破砕部

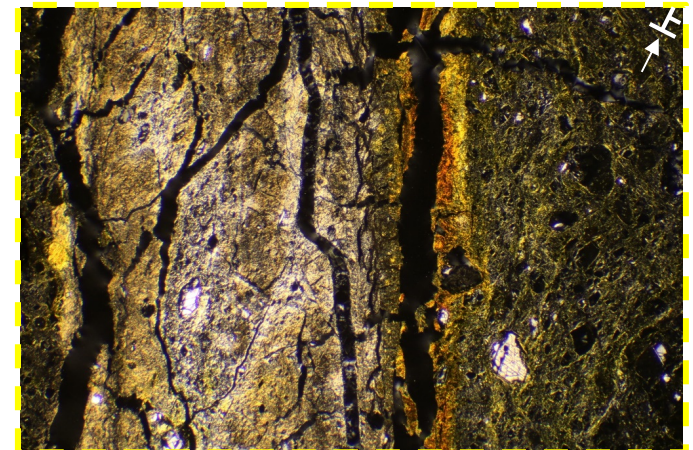
<拡大写真>



オープンニコル(右に90°回転)

1mm

<拡大写真>



クロスニコル(右に90°回転)

1mm